## ベースラインの吸収量(R6年度)

ベースラインの吸収量は、雑海藻駆除区域に隣接して設けた対照区の調査結果より、海藻種別の現存量を用いた。対照区で見られた海藻種はミツイシコンブのほかコンブ目のアナメ、ウガノモク、スガモ、紅藻類ではクシベニヒバである。対照区では平均して以下の海藻現存量が得られた。なお、紅藻類は吸収係数に関する文献値が種別に細分化できないため、紅藻類として一つにまとめた。

その他の吸収係数に関する各海藻種のパラメーターは文献値を採用した。海藻種毎の各パラメーターと吸収係数を次表に整理する。

表 　ベースラインの吸収係数(R6年度)



※残存率①はJBE手引き値“海藻藻場”0.0472を使用

　残存率②は同、コンブは”コンブ藻場”、ウガノモクは“ガラモ場”、紅藻類は“テングサ場”を使用。スガモは近縁種の“アマモ場”を使用。

種毎の吸収係数を合計してベースラインの吸収係数とし、藻場面積を乗ずることでR6年度対照区の吸収量を求めた。

ベースラインの吸収量＝ベースラインの吸収係数×藻場面積

（R6年度対照区）　　＝ 1.65 (t CO2/ha) × 14.018 (ha)

　　　　　　　　　　＝ 23.13 (t CO2)

## ベースライン吸収量の昨年度との比較

対照区を設ける際のベースラインの吸収量の考え方に、JBE事務局より以下が示されている。

表 対照区を設ける際のベースラインの吸収量の考え方

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | プロジェクト実施前(B) | プロジェクト実施後(A) |
| プロジェクト実施区(I) | a | b |
| 対照区(C) | c | d |

ベースライン＝ a ＋ ( d － c )

申　請　量　＝ b － ベースライン ＝ b － a － ( d － c )

これを本申請のえりも町の調査に適用すると、以下になる。

a: 昨年申請対照区 (R5駆除予定区）

b: 本申請区域 (R5駆除区)

c: 　無　し (昨年にR6駆除予定区の調査無し)

d: 本申請の対照区 (R6駆除予定区）

参考に、昨年申請の対照区の吸収係数より、今年度のベースラインを算出すると以下となる。

表 1　ベースラインの吸収係数(R5年度)



ベースラインの吸収量＝ベースラインの吸収係数×藻場面積

（R5年度対照区）　　＝ 4.27 (t CO2/ha) × 14.018 (ha)

　　　　　　　　　　＝ 59.86 (t CO2)

頁冒頭の表中にあるc (プロジェクト実施前の対照区)のデータがないため、a (昨年度申請の対照区)と同程度の海藻繁茂量であったことを想定すると、以下の計算となる。申請においては、これをベースラインとして設定する。

ベースライン＝ a ＋ ( d － c )

　　　　　　＝ 59.86 ＋ ( 23.13 － 59.86 )

　　　　　　＝ **23.13 (t CO2)**

## 各海藻のパラメーター

## ミツイシコンブ

北海道および東北地方より、コンブ属に関する資料を広く収集した。

表 　コンブに関する既往知見



## ウガノモク

ホンダワラ類に関する資料を広く収集した。

表 　ホンダワラ類に関する既往知見



## 紅藻類

現地で多く見られた海藻種に限定した既往知見は乏しいため、紅藻類に関する資料を広く収集した。ただし、石灰質の多いサンゴモ目は、文献平均値から除外した。

表 　紅藻類に関する既往知見



## スガモ

スガモに特定した既往知見は少なく、近縁のアマモに関する資料を多く参照した。ただし、地下茎と種子に関する資料は除いた。

表 　アマモに関する既往知見



## 文献リスト

表 　収集文献リスト

